

二月二十五日(水)

経営情報学部・美術文化学部・スポーツ健康学部

平成二十七年 度 金沢学院大学 入学試験問題（一般入試後期）

国語

（注意事項）

国語と記入・マークした解答用紙に解答してください。
問題は持ち帰ってもよいが、法律上コピーして配ってはいけません。

（解答上の注意）

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、10と表示のある問いに対して④と解答する時は、下記の（例）のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

（例）

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。なお、設問の都合上、表記を変更した箇所がある。

外国文学の邦訳を読んでいると、びっくりするような言葉づかいに出会うことがある。作品中で「黒人」「インディアン」「ジプシー」と呼ばれる（非白人）が、このものとはつきりしない「疑似方言」を使っているのである。一九五七年に邦訳されたマーガレット・ミッチェルの『風と共に去りぬ』では、白人男性は「標準語」、白人女性性は「女ことば」を使っているのに、黒人は「ごぜえますだ」を使っている。パーティーに行く前の場面では、「わ・のよ」で食事を^①キヨヒするスカーレット（白人女性）に対して、マミー（黒人女性）は「ごぜえますだ・ねえだか・ますだよ」で^②セツトクしている。

スカーレット「いらないわ。ほしくないのよ。台所にさげておくれ」

マミー「いんや、駄目で^③ごぜえますだ。この前の園遊会ときには、（中略）あんなぶざまなことを仕出かしたではねえだか。これを、一つ残らず食べていただきますだよ」

（M・ミッチェル『風と共に去りぬ』大久保康雄・竹内道之助訳）

翻訳で使われる地域語は「白人の標準語」から区別されていれば良いようで、同じ集団のせりふが複数の地域語で翻訳される場合もある。また、白人でも農家など特定の階級にも使われる。一九五六年に邦訳されたドストエフスキの『罪と罰』では、「百姓」のせりふが「けえ」という西日本方言と、「べえ」「だよ」という東日本方言の両方に訳されている。

「おい、ミコールカ、わりやせんたい正気^④けえ？（後略）」

「さあ、乗れっていうに！ うんと飛ばしてくれ^⑤べえ！ 飛ばしてみせるだよ！」

（F・ドストエフスキ『罪と罰』米川正夫訳）

「標準語」は白人が使い、非白人や農民は「方言」を使う。このようなことばの使い分けは右に挙げた作品に限らない。なぜこのような使い分けが行われたのだろうか。それを推測するためには、「方言」という概念が生まれた事情に立ち戻らなければならない。

私たちは、方言とは、その地域にすむ集団が実際に特定の言葉づかいをしたから自然に成立したと考えがちである。東北地方に住む人が特定の言葉づかいをしたから、「東北弁」という地域語ができたと考えるのである。（a）、「方言」という概念は、「国語」標準語」概念の成立にもなってつくり出されたものであることが指摘されている。

明治時代には、それまで藩に分かれていた日本を、近代国民国家として統合するために「国語」を制定することが不可欠だと考えられた。当時の日本では、一部の知識人に^⑥センユウされた漢文体などの書きことばと、それとはかけ離れたいろいろな話したことばが混然としていた。今からは想像もつかないが、違う地域からきた人とはスムーズにコミュニケーションできないような状態だったと言われている。欧米諸国の技術や知識を広く普及させ、「一つの国語を話す一つの国民」をつくりあげるためには、「一つの国語」が必要

とされた。

「国語」を制定するために提案されたのが「言文一致」という考え方である。「言文一致」とは、話しことば（言）にもとづいた書きことば（文）を考え出すことをさし、一般の人びとにも使いやすい話しことばのような言葉づかいによって、知識や情報が⁽⁴⁾あまねく伝わるだろうと期待された。そして、「国語」の基準として選ばれたのが「教育ある東京人」の言葉づかいである。

ここで「教育ある」という⁽⁷⁾但し書きによって排除されているのは、「ベランメーことば」と呼ばれた、東京の下町や職人によって使われていた言葉づかいである。「標準語に就きて」で「教育ある東京人」の言葉づかいを「国語」の基準として⁽⁴⁾テイショウした上田万年も、「ただし、東京語といえは或る一部の人は直に東京の『ベランメー』言葉の様に思うべけれど決してさにあらず」と「ベランメーことば」をはずすことを明言している。（b）「教育ある」という定義には、すでに社会階級の区別が表明されていたのである。（c）、「東京人」によって排除されたのが、東京以外での言葉づかいであった。東京以外の言葉づかいが「国語」標準語の成立にとっての障害として認識されるようになった。明治三五（一九〇二）年に国語調査委員会が発表した決議事項の一つは「方言ヲ調査シテ標準語ヲ選定スルコト」と、方言調査を経たのちに標準語を選ぶとしている。しかし、^(注)イ・ヨンスクが指摘しているように、その実態は「滅ばすべき相手としての方言の実態調査という意味合いがあつた」（『国語という思想』）。「方言」とは「国語」標準語の成立を妨げる言葉づかいとして、初めから⁽⁸⁾否定的価値をともなつて誕生したのである。

「標準語」を話すことは正しいことであるが、「方言」を話すことは間違っている。このような認識は、学校現場で地域語を使った子どもをあからさまに罰する制度を生み出していった。（d）、「首里語を共通語としていた沖縄では、明治四〇（一九〇七）年ごろになると、学校で方言を話すを札を渡して罰するという「方言札制度」が行われるようになる。「方言は悪い」という価値観が体罰を通して教え込まれたのである。罰札制度は昭和の戦中期に再び復活している。

戦後になって「人権」や「民主主義」が流入するようになると、「方言」の復権が唱えられた。しかし、長い間「劣った」言葉づかいという烙印⁽⁹⁾を押されていた地域語と「標準語」の不均等な関係は、すぐには解消されなかった。（e）、「私が小学生だった一九六〇年代に、長崎から転校してきた女の子が先生のことを「しえんしえい」と呼んだ時に、クラス中が笑ったのを覚えている。彼女はすぐに「せんせい」と言うようになってしまった。

このように、「標準語」と「方言」という概念は、たんに使われている地域が異なることを示すだけでなく、「標準語」は教育ある中流階級の正しい言葉づかいで、「方言」は教育のない階級の劣った言葉づかいだという不均等な価値観が付随していたのである。

「方言」誕生の⁽⁵⁾ケイイは、言語資源というものには、区別だけでなく優劣がともなっていることを示している。それは、区別というものが、差別するためにする区別である場合が多いからである。「方言」が作り出されたのは、日本全国に混在していたさまざまな地域語の中で、「東京語」と「非東京語」の間に境界線を引き、「優れた標準語」に対して「劣った方言」を差別するためであった。

「標準語」と「方言」に与えられたこのような不均等な価値に気づくと、なぜ白人の翻訳には「標準語」が使われ、黒人や農民には架空の「方言」が使われたのかを推測することができる。（f）、「教育ある中流階級が使う「正しい標準語」と教育のない階級が使う「劣った方言」という区別を通して、〈中流白人〉と〈非白人・農民〉の区別を表現しようとしたからだろう。日本にはない集団間の区別は、国内の区別によって表現するしかないともいえる。

しかしこれは、^(*)恐ろしい偏見を再生産している。ここでは、「優れた標準語」と「劣った方言」を白人と非白人に区別して使い分けることで、日本国内にも「優れた白人」と「劣った非白人」という誤った偏見をつくり出してしまっているだけでなく、この偏見にもとづいて、さらに「優れた標準語」と「劣った方言」の区別を再生産しているのである。

注 「イ・ヨンスク」……社会言語学者

(中村桃子『「性」と日本語 ことばがつくる女と男』NHK出版による)

問1 傍線部①～⑤のカタカナ部分に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 1 5。

① キョビ

1

- ① ヒソウな決意で立ち向かう。
② 原案についてサンビを問う。
③ 条約をビジュンする。
④ ヒライシンを屋上に立てる。
⑤ ヒゾクな趣向はよくない。

② セツトク

2

- ① 司書の資格をシュトクする。
② カトクを継ぐべき立場の人。
③ トクジツな人柄が魅力。
④ 小学校のドウトクの時間。
⑤ トクメイを帯びて渡米する。

③ センユウ

3

- ① 小野小町はロッカセンの一人。
② センセイジュツに凝る。
③ 研究開発のセンペイとなる。
④ 入学式でセンセイする。
⑤ センダイが築いた財産。

④ テイシヨウ

4

- ① テイハツして出家する。
② 近著をシンテイする。
③ キュウテイ文化に憧れる。
④ タイテイではない気苦労をする。
⑤ 事業のテイケイをもちかける。

⑤ ケイイ

5

- ① ケイソウチュウの事件。
② 試合の途中ケイカ。
③ 国旗をケイヨウする。
④ ケイロウ精神を培う。
⑤ セツケイに足をとられる。

問2 (a) ～ (f) に入る接続の言葉として最も適当なものを、次の①～⑧からそれぞれ一つずつ選べ。
解答番号は (a) ≡ 6、(b) ≡ 7、(c) ≡ 8、(d) ≡ 9、(e) ≡ 10、(f) ≡ 11。

- ① あるいは ② 同様に ③ 実際 ④ ところで
- ⑤ しかし ⑥ それは ⑦ つまり ⑧ たとえば

問3 傍線部ア「近代国民国家として統合する」と同様の意味で用いられている文中の表現はどれか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 「方言」を復権させる
- ② 「言文一致」という考え方を提案する
- ③ 区別の再生産をおこなう
- ④ 「一つの国語を話す一つの国民」をつくりあげる
- ⑤ 「国語≡標準語」概念の成立にともないつくり出す

問4 傍線部イ(ウ)の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。
解答番号は 13、15。

- (イ) あまねく 13
- ① 誤りなく正しく ② 偏りなく公平に ③ 広く国中に
- ④ すべての世代に均等に ⑤ ある水準を保ち広範に

- (ウ) 但し書き 14
- ① 例外的な規定 ② 条件付きの規定 ③ 明示された制約
- ④ 決まりごと ⑤ 絞り込み

- (オ) 烙印を押されていた 15
- ① 動かし難い悪評を被っていた ② 消せない傷を負っていた ③ 罰せられるべき扱いであった
- ④ 減ほすべきものと信じられた ⑤ 不均衡な関係に甘んじてきた

問5 傍線部(エ)「否定的価値」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 使用すべきではない言葉として認識されていた
- ② 素性が定かでない言葉であると見なされていた
- ③ 「標準語」を支える陰の存在として位置づけられていた
- ④ 社会の階級の区別を表明する言葉として生みだされた
- ⑤ 排除されても仕方がない言葉として定義されていた

問6 傍線部(カ)「彼女はすぐに『せんせい』と言うようになってしまった」とあるが、この部分で述べられている内容に合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 転校生の女の子は、身についた言葉づかいがこのクラスでおかしく聞こえると予想していなかったかもしれない。
- ② 一九六〇年代でも、日本の小学校では、子どもの地域語を笑いのものにすることはよくあり、教師は注意しなかった。
- ③ 転校してきた女の子は、地域語はこの小学校のクラスでは使うべきでないと、すぐに学んだ。
- ④ 転校した女の子が地域語を直ちに封印したことを、現在の筆者は痛ましいことだと感じている。
- ⑤ 長い間否定されてきた地域語には、戦後になっても劣っているというイメージがまとわりついていた。

問7 傍線部(キ)「恐ろしい偏見を再生産している」とあるが、なぜ恐ろしいのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 「標準語」と架空の「方言」を、白人と非白人にそれぞれ振り当てて翻訳することで、非白人と「方言」を劣ったものと差別する偏見を、日本国内に、無意識に反復し定着させているから。
- ② そもそも日本にはない白人と非白人の区別を翻訳のなかで表現するとき、どこにもない架空の「方言」を勝手に作り出し、それを非白人の言葉に割り当て無条件に使用しつづけているから。
- ③ 白人と非白人を差別する人種的偏見を、「標準語」と「方言」の関係に当てはめて増幅させ、人種差別がない日本に、その偏見をあたかも確かな根拠のあるもののように根付かせているから。
- ④ 実際問題としては、日本国内では「方言」の復権が完全に実現したにも関わらず、翻訳の世界では、旧来の「方言」差別が非白人差別と結びつけられ、未だに再生産され続けているから。
- ⑤ 教育ある中流階級という、きわめて限定された階層の言葉を「優れた標準語」と見なし、それ以外を劣ったものとして排除する典型的な偏見が、さらに強化されて繰り返されているから。

第2問 次の問題文は、森鷗外の小説『護持院原の敵討』の一節である。「宇平」の父「三右衛門」は、ある夜、藩邸に金目当てに押し入った亀蔵に殺害された。「りよ」は、「宇平」の姉である。以下の文章を読み、後の問い（問1～問8）に答えよ。なお設問の都合上、原文の表記を変更した箇所がある。

侍が親を殺害せられた場合には、敵討をしなくてはならない。ましてや三右衛門が遺族に取っては、その敵討が故人の遺言になっている。そこで親族打ち寄って、度々評議を凝らした末、翌天保五年甲午の歳の正月中旬に、表向敵討の願をした。

評議の席で一番熱心に復讐がしたいと言い続けて、成功を急いで気を苛ったのは宇平であった。色の蒼い、瘡^{あざ}せた、骨細の若者ではあるが、病身ではない。姉のりよは始終黙って人の話を聞いていたが、願書に自分の名を書き入れてもらうことだけは、きつと居直つて要求した。りよは十人並の容貌で、筋肉の引き締まった小女^{こおんな}である。未亡人は頭痛持でこんな席へは稀にしか出て来ぬが、出て来ると、もし返討^{かえりうち}などに逢いはすまいかと云う心配ばかりして、果てはどうしてこんな災難に遇ったことかと繰り返し返してくどくのであった。

（注2）日が窪から来る原田夫婦や、未亡人の実弟桜井須磨右衛門は、いつもそれを慰めようとして骨を折った。しかるにここに親戚一同がひどく頼みに思っている男が一人いる。この男は本国姫路にいるので、こういう席には列することが出来なかつたが、討音^{うごいん}に接するや否や、弔慰^{くやみ}の状をよこして、敵討にはきつと助太刀をすると誓ったのである。姫路ではこの男は家老本多意気揚^{いぎりや}に仕えている。名は山本九郎右衛門と云って当年四十五歳になる。亡くなった三右衛門がためには、九つ違いの実弟である。

九郎右衛門は兄の討音を得た時、すぐに主人意気揚に願書を出した。甥^{おい}、女姪^{めい}が敵討をするから、自分は留守を伴健蔵に委^{まか}せて置いて、助太刀に出たいと云うのである。主人本多意気揚は徳川家康が酒井家に附けた意気揚の子孫で、

A に心入の深い人なので、

すぐに九郎右衛門の願を聞き届けた。江戸ではまだ敵討の願を出したばかりで、上からそんな沙汰もないうちに、九郎右衛門は意気揚から（注3）拵附^{こしらえつき}の刀一腰と、手当金二十両とを貰^{もら}つて、姫路を立つた。それが正月二十三日の事である。

二月五日に九郎右衛門は江戸蠣殻町の中郎にある山本宇平が宅に着いた。宇平を始^{はじめ}、細川家から暇を取って帰っていた姉のりよが喜^{よろこ}びは譬^{たと}えようがない。① チンチャクで口数をきかぬ、筋骨逞^{たくま}しい叔父を見たばかりで、姉も弟も安堵^{あん堵}の思をしたのである。

「まだこつちではお許は出んかい」と、九郎右衛門は宇平に問うた。

「はい。まだなんの御沙汰もございませぬ。お役人方に伺いました、多分忌中だから御沙汰がないのだろうと申すことで」

九郎右衛門は眉間^{みけん}に皺^{しわ}を寄せた。しばらくして、「大きい車は廻りが遅いのう」と云った。

それから九郎右衛門は、旅の支度が出来たかと問うた。いずれお許が出てからと、宇平が云った。叔父の眉間にはまた皺が寄った。しかし今度は長い間なんとも言わなかつた。外の話を色々した後で、叔父は思い出したように云った。「あの支度はもう、先へして置いてもいいぞよ」

六日には九郎右衛門が兄の②ボサンをした。七日には浜町の神戸方へ、兄が末期に世話になった礼に往った。西北の風の強い日で、ちょうど九郎右衛門が神戸の家にいるうちに、神戸から火事が始まった。歴史に残っている午年の大火である。未^{ひつじ}の刻に佐久間町二丁目の琴三味線師の家から出火して、日本橋方面へ焼けひろがり、翌朝卯の刻まで焼けた。「八つ時分三味線屋からことを出し火の手がちりてとんだ大火事」と云う（注4）落首^{らくしゅ}があつた。浜町も蠣殻町も風下で、火の手は三つに分かれて焼けて来るのを見て、神戸の内は人出

も多いからと云って、九郎右衛門は蟻殻町へ飛んで帰った。

山本の内では九郎右衛門が指図をして、荷物は残らず出させたが、申の下刻には中邸一面が火になって、山本も焼けた。

りよは火事が始まるとすぐ、旧主人の細川家の邸をさして駆けて行ったが、もう豊島町は火になっていた。「あぶないあぶない」「姉さん火の中へ逃げちゃあいけねえ」などと云うものがある。とうとう避難者や弥次馬共の間に挟まれて、身動もならぬようになる。頭の上へは火の子がばらばら落ちて来る。りよは涙ぐんで亀井町の手前から引き返してしまった。内へはもう叔父が浜町から帰って、荷物を片付けていた。

浜町も矢の倉に近い方は大部分焼けたが、幸に酒井家の添邸は焼け残った。神戸家へ重々世話になるのは気の毒だと云うので、宇平一家はやはり遠い親戚に当る、添邸の山本平作方へ、八日の辰の刻過に避難した。

三右衛門が遺族は山本平作方の部屋を借りて、夢の中で夢を見るような心持になって、ぼんやりしている。未亡人は頭痛が起って寝たきりである。宇平は腕組をして何やら考え込む。たたりよ一人平作の家族に気兼ねをしながら、甲斐々々しく立ち働いていたが、午頃になって細川の奥方の^(注5)立退所が知れたので、すぐに見舞に往った。

晩にりよが帰ると九郎右衛門が云った。「おい。もう当分我々は家なんぞはいらんが、若殿が旅に出て風邪を引かぬように、支度だけはして遣らんではならんぞ」叔父は宇平を若殿々々と呼んで揶揄っているのである。

「はい」と云ったりよは、その晩から宇平の衣類に手を着けた。

九日にはりよが旅支度にいる物を買に出た。九郎右衛門が書附にして渡したのである。きようは風が南に変わって、珍らしく暖いと思っていると、酉の上刻に又櫓物町から出火した。おとつい焼け残った町家が、またこの火事で焼けた。

十日には又寒い西北の風が強く吹いていると、正午に大名小路の松平伯耆守宗発の上邸から出火して、京橋方面から芝口へ掛けて焼けた。

続いて十一日にも十二日にも火事がある。⁽³⁾フツカの高いのに、災難が引き続いてあるので、江戸中^(注6)人心恟々としている。山本方で商人に注文した、少しばかりの品物にも、思い掛けぬ手違が出来て、りよが幾ら気を揉んでも、支度がなかなかかどらない。ある日九郎右衛門は烟草を飲みながら、りよの裁縫するのを見ていたが、⁽⁴⁾フシンらしい顔をして、烟管を下に置いた。「なんだい。そんなちっぽけな物を持えたって、しようがないじゃないか。若殿はのっぽでお出になるからなあ」

りよは顔を赤くした。「あの、これはわたくしので」縫っているのは女の^(注7)脚絆甲掛である。

「なんだと」叔父は目を大きく目を睜った。「お前も武者修業に出るのかい」

「はい」と云ったが、りよは縫物の手を停めない。

「ふん」と云って、叔父はやや久しく女姪の顔を見ていた。そしてこう云った。「そいつは駄目だ。お前のような可哀らしい女の子を連れて、どこまで往くか分からん旅が出来るものか。敵にはどこで出逢うか、何年経って出逢うか、まるで当がないのだ。己と宇平とはただそれを捜しに行くのだ。見附かってからお前に知らせれば好いじゃないか」

「おっしゃるとおり、どこでお逢になるか知れませんが、きつと江戸へお知らせになることが出来ましようか。それに江戸から参

るのを、きつとお待^{まち}になることが出来ましようか」罪⁽⁴⁾のないような、狡猾^{こうかく}らしいような、くりくりした目で、^⑤ビショウを帯びて、叔父の顔をじつと見た。

叔父は^(カ)「少からず狼狽^{ろうばい}した」。「なる程^{ほど}。それは時と場合とに依る事で、わしもきつとは云い兼ねる。出来る事なら、どうにでもしてお前をその場へ呼んで遣^{つか}るのだ。万一間に合わぬ事があつたら、それはお前が女に生れた^(注8)不肖^{ふしょう}だと、諦めてくれるより外ない」「それ御覽遊ばせ。わたくしはどうしてもその万一の事のないようにいたしとうございます。女は連れて行かれぬとおっしゃるなら、わたくしは尼^(キ)になつて参ります」

「まあ、そう云うな。尼も女じゃからのう」

りよは涙を縫物の上に落して、黙っている。叔父は一面詞^{ことば}を尽して慰めたが、一面女は連れて行かぬと、きっぱり言い渡した。りよは涙を拭^ふいて、縫いさした脚絆をそつと側にあつた風呂敷包の中にしまった。

(注)

1 「敵討」…主人や親兄弟を殺した者を討ち取つて、恨みを晴らすこと。「あだうち」と読む場合もある。

2 「日が窪」…江戸（現在の東京にあたる）の地名。以下、「蠣殻町」、「佐久間町」、「浜町」、「豊島町」、「亀井町」、「矢の倉」、「檜物町」、「京橋」、「芝口」なども、江戸の町名、地名である。

3 「拵附の刀」…外装の施された刀。

4 「落首」…短歌や狂句、連歌形式などで政治や社会の風刺・批判を書いたもの。この落首では、「八つ時分」と「八つ乳ぶん（八つ乳房のある猫の皮、三味線に張るのに珍重された）」、「事」と「琴」、「（火の）手」と「（琴の）手」、「散りて飛んだ」と「ちりてんとん」などを掛けている。

5 「立退所」…避難所。

6 「人心恟々」…世の中の人々の心が、おそれおののいていること。

7 「脚絆甲掛」…いづれも当時の旅行要具で、「脚絆」は歩行のために足のすねに当てる布、「甲掛」は日光や塵をさえぎるために手や足の甲に巻く布のこと。

8 「不肖」…正しくは不祥と書き、運の悪いこと、不仕合わせ、の意。

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 19 ～ 23。

① チン|チャク

19

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 急にチン|キな動物が現れる。
人生のフチン|に思いを巡らす。
チン|タイのマン|ションに住む。
武力で反乱をチン|アツする。
自分の誤りをチン|シャする。

② ボ|サン

20

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ボ|ケツを掘るに等しい行動。
空がボ|シヨクに包まれる。
歴史上の偉人をツイ|ボ|する。
チャリ|テイで集まったボ|キン。
数字をチ|ョウ|ボ|に記入する。

③ ブツ|カ

21

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 他人に責任をテン|カする。
多くのツウ|カが流通する。
物語がカ|キョウに入る。
全ての商品にカ|ゼイする。
彼の行為はヒョウ|カできる。

④ フ|シン

22

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 病気で食欲がフ|シンである。
定期的に身体をケン|シンする。
国会で法律をシン|ギする。
自分の仕事に日夜フ|シンする。
裏切りによりフ|シンを招く。

⑤ ビ|シヨウ

23

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 事故現場がサン|ビを極める。
様々な人情のキ|ビに触れる。
家に防災品をジョウ|ウ|ビする。
話のシュ|ビが一貫している。
カン|ビな旋律に聴き惚れる。

問2 傍線部(ア)・(イ)・(カ)の語句の、この本文における意味内容として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は(ア)＝24、(イ)＝25、(カ)＝26。

(ア)「訃音に接するや否や」

- | | | |
|-----------------|------------------|------------------|
| ① 人のうわさを聞くとすばやく | ② 死去のしらせを受けるとすぐに | ③ 手紙の返事を受けるとようやく |
| ④ 親戚の連絡を受けるとすぐに | ⑤ 虫のしらせを感じるとすばやく | |

(イ)「敵討にはきつと助太刀をする」

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| ① 敵討をするに必ず賛成する | ② 敵討に使う刀をきつと用意する | ③ 敵討をするのに必ず加勢をする |
| ④ 敵討をきつと代わりにおこなう | ⑤ 敵討に対してきつと返討をする | |

(カ)「少からず狼狽した」

- | | | |
|-------------------|--------------------|-------------------|
| ① とてもがっかりして、力を失った | ② 多少ではあるが怒って、たしなめた | ③ たいへん身が縮むほど、おそれた |
| ④ 少々面食らって、ぼんやりとした | ⑤ 大いにあわてふためき、うろたえた | |

問3 本文の空欄 A に入る最も適当と思われる用語を、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は27。

- | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|
| ① 義侠心 | ② 学問 | ③ 権謀術 | ④ 武士道 | ⑤ 大和魂 |
|-------|------|-------|-------|-------|

問4 傍線部ウ「大きい車は廻りが遅いのう」とあるが、この比喻の意味する内容として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 敵討の旅は長いことが予想され、支度に時間が掛かるのは仕方がないが、宇平があまりにのんびりしているのを皮肉ったもの。
- ② 自分は早く敵討の旅に出たいが、宇平を引き連れての旅なので彼の支度がなかなか進まず、暗にいらいらしていることを伝えたいもの。
- ③ 自分も早く敵討の旅に出たいが、役人が忌中であることにまで気を遣ってくれていることを知り、予想外に驚いたもの。
- ④ 宇平と一緒に早く敵討の旅に出たいが、旅の費用がたくさん掛かるので、すぐには出発できないことを暗に悲しんだもの。
- ⑤ できれば早く敵討の旅に出たいが、お上の組織は大きいので、敵討の願の手続きがなかなか捗らないことを遠回しに嘆いたもの。

問5 傍線部エ「夢の中で夢を見るような心持になって、ぼんやりしている」とあるが、その心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 一家の主人が殺された上に、遠い親戚とはいえ他人の部屋を借りるまで落ちぶれて、みじめでなさけない気持ち。
- ② 火災に遭っては仕方が無いとはいえ、他人の部屋で寝泊まりしなければならぬので、安心して眠れない気持ち。
- ③ ありえないような不運が何度も一家に続いて、この世が信じられず、無意識のうちに現実を逃避しているような気持ち。
- ④ 遠い親戚の世話にはなっているが、一家に立て続けに起きた災難に当惑し、頼りなく不安でぼうっとしている気持ち。
- ⑤ 夢の中で見たことは実際には起こらないものだが、現実には殺人や火災などの災難が続いて、茫然と運命を呪う気持ち。

問6 傍線部オ「罪のないような、狡猾らしいような」とあるが、どのような意味か。前後関係を踏まえたうえで、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 30。

- ① 自分の決心を受け入れてもらえず、叔父に強く反論しようとする反抗的な、という意味。
- ② 叔父を困らせようとする気持ちはないが、うまく言葉尻をとらえて得意げな、という意味。
- ③ 意地悪く叔父をやり込める気はないが、どうしても主張を通したいという生意気な、という意味。
- ④ 叔父の揚げ足をとる気持ちはないが、絶対に負けないという優越感に浸るような、という意味。
- ⑤ とても無邪気で優しい表情ではあるが、強い決意を心の中に秘めていて頑固な、という意味。

問7 傍線部(キ)「わたくしは尼になって参ります」とあるが、この言葉に込められた「りよ」の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 世俗を捨てても、女性でありつつ男性と同じようにどうしても敵討に同行したいという固い決意。
- ② 普通の方法では同意してもらえないので、非常手段を思い付いて叔父を出し抜こうとする気持ち。
- ③ 反論できないような強い口調で叔父を翻意させて、死んでも敵討に同行したいという真剣な思い。
- ④ 叔父に抗議して、女性であることを捨てても男性と同様に敵討に参加したいというはかない希望。
- ⑤ 尼でも女性であることに変わりはないが、何を言っても仕方がないので、自暴自棄になった感情。

問8 森鷗外の歴史小説を次の①～⑧から二つ選べ。解答番号は 32 ・ 33。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| ① 『舞姫』 | ② 『高瀬舟』 | ③ 『地獄変』 |
| ④ 『草枕』 | ⑤ 『青年』 | ⑥ 『五重塔』 |
| ⑦ 『彼岸過迄』 | ⑧ 『阿部一族』 | |